

# ヨハネス・デ・レーケと平田ゆきえの

## 三川分流工事について

オランダ

ヨハネス・デ・レーケ 明治時代

年	できごと	1912 全ての工事が でき上がる
1842	生まれる	このことでも思ったこと ヨハネス・デ・レーケ と平田ゆきえさんが 長いあいだ工事をが んばってくれたから そのおかげで 今は水害がおきて いないからかんしゃ しないとイケない し、川を大切にしたい です。
1873	来日する	
1878	まねかれて分流のための調査をはじめ	
1887	第一期工事がはじまる	
1896	第二期工事がはじまる	
1900	第三期工事がはじまる	
1903	オランダに帰る	
	くわしく ↓	
	・第一期工事は木曾川と長良川と中流で分流 ・第二期工事は、第一期より南の三川の分岐や 新堰をつくる ・第三期工事は松の木より上流のいひかわすじを まっすぐに新堰をつくる ・この工のためにどうやら 二はんや、のみものなど	

鹿児島

平田 勲負

江戸時代

毎年氾濫による被害が多発していた。このようなあとも  
 木曾三川の分流工事をさつまはんにも  
 命じる、そして引き受けることになり。

平田は総奉行となる40万両に  
 もとる工事費用を捻出するたの借金を  
 重ねたけど専門積立の許可は下りず、や  
 なたを命じられることにはしはしあった。

木材 宝暦治水工事にかけたしぎい  
 12万743本 172万8709本  
 石 5816本 4万1724つぼ  
 米 160万俵 700束 (約240,000m<sup>3</sup>)  
 砂利土 20万403坪 (1200,000m<sup>3</sup>)

工事ひ約40万りょう

義薩士摩  
 平田勲負屋敷跡

# 平田勲負の宝暦治水

宝暦治水とは、

江戸時代は毎年のようにこの水がおこり輪中に住む人たちは  
 大きなむかいを受けました。輪中に住む人たちはこの水を少なくする  
 ための工事をよ政府に何度もおねがいをしました。  
 宝暦3年ば政府はさつまはんにも曾川・長良川・いひ川を分流する  
 ための工事を命令したことがのちに宝暦治水といわれるものです

## 宝暦治水工事にかけたお金

木材や石木や石砂利土などの工事にかけたお金は40万両です  
 お金を集めた方法は大阪の商人からお金を借りたり  
 はんの人たちからお金を借りたりはんの人にお金をきふして  
 もらったりはんのお金をむだにしない命令をだしたり  
 人、牛馬舟台へのぜい金を高くしたりしてお金を集めています。

さつまはんの活やく

いぼうを高くしたりはばを広げたりして水の流れからいぼう  
 を守るためにさるおをつくりたり石をつめたかごをならべたり  
 しました。

## 考えたこと

平田勲負はお金をかけたまで水害でのぎせい者を少なく  
 したいことがすごいと思いました  
 あとむかしはきかいがあまりなからたのに1年半で工事をして  
 いたり工事のとき多くのぎせい者を出してまで工事をしている  
 すごいと思いました